



- 最後までいじめを受けた側の児童・保護者に寄り添う立場を貫く。
- 双方の保護者と十分に連絡を取り話し合いを進める。
- 傍観者も実はいじめの加担者であることを全校的に指導する。
- いじめはどこにでも誰にでも起こりうることを決して忘れない。
- 報連相を徹底し、校長の指揮のもと、組織・チームとして解決していく。